



<報道関係各位>

2020年11月5日
株式会社 QPS 研究所

追加資金調達のお知らせ

～準リアルタイム地上観測データサービスの構築に向けて次のステップへ～

「宇宙の可能性を広げ、人類の発展に貢献すること」を使命に 2005 年に創業した株式会社 QPS 研究所（福岡県中央区、代表取締役社長 CEO：大西俊輔、以下 QPS 研究所）は、既存株主からの追加調達ならびに株式会社日本政策金融公庫からの融資をあわせて、総額 8.65 億円の資金調達を実施致しました。本追加調達ならびに本融資により、これまでに調達した資金調達の累計総額は約 33 億円となりました。



QPS 研究所は自社開発した小型衛星用の大型軽量アンテナにより、従来の SAR（合成開口レーダー）衛星の 20 分の 1 の質量、100 分の 1 のコストを実現し、100 kg 級高精細小型 SAR 衛星の打ち上げに日本で初めて成功しました。現在は 2025 年を目標に 36 機の小型 SAR 衛星を打ち上げてコンステレーションを構築し、約 10 分ごとの準リアルタイム地上観測データサービスの提供を目指しています。このプロジェクトの実現に向け、2017 年 10 月に総勢 9 社を引受先とする総額 23.5 億円の資金調達を行い、技術実証機の役割を担う衛星「イザナギ」「イザナミ」の 2 機の開発、製造、打ち上げへと取り組むことができました。

2019 年 12 月に 1 号機「イザナギ」の打ち上げを実現し、2020 年 12 月以降には 2 号機「イザナミ」の打ち上げを予定しています。本追加調達ならびに本融資により調達した資金は、弊社が目指す小型 SAR 衛星 36 機体制の実現に向け、2022 年打ち上げ予定の 3 号機～6 号機の先行開発ならびに足長部材の先行手配等の資金として使用する予定です。

<株式会社 QPS 研究所について>

株式会社 QPS 研究所は九州の地に宇宙産業を根差すことを目指して、2005 年に九州大学の名誉教授の八坂哲雄と桜井晃、そして三菱重工業株式会社のロケット開発者であった船越国弘により創業されました。QPS とは「Q-shu Pioneers of Space」の頭文字を取っており、九州宇宙産業の開拓者となること、更には九州の地より日本ならびに世界の宇宙産業の発展に貢献するとの思いが込められています。その名の通り、九州大学での小型人工衛星開発の 20 年以上の技術をベースに、国内外で衛星開発やスペースデブリの取り組みに携わってきたパイオニア的存在である名誉教授陣と若手技術者・実業家が一緒になって、幅広い経験と斬新なアイデアをもとに、宇宙技術開発を行っています。また、QPS 研究所の事業は、創業者たちが宇宙技術を伝承し育成してきた約 20 社の九州の地場企業に力強く支えられています。

2020 年 2 月には QPS 研究所の準リアルタイムデータ提供サービスの実現加速に向けて、宇宙航空研究開発機構（JAXA）の宇宙関連事業の更なる創出を目指す「JAXA 宇宙イノベーションパートナーシップ（J-SPARC：ジェイ・スパーク）」の下、両者が共創して事業コンセプトを検討する活動を開始しました。また、2020 年 5 月に衛星の観測データを活用した新たな事業の検討を開始するため九州電力株式会社と事業連携を発表しました。

プレス関係の方のお問い合わせ先
株式会社QPS研究所 〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神1-15-35 レンゴー福岡天神ビル 5階
担当名：有吉 Email: y.ariyoshi@i-qps.com